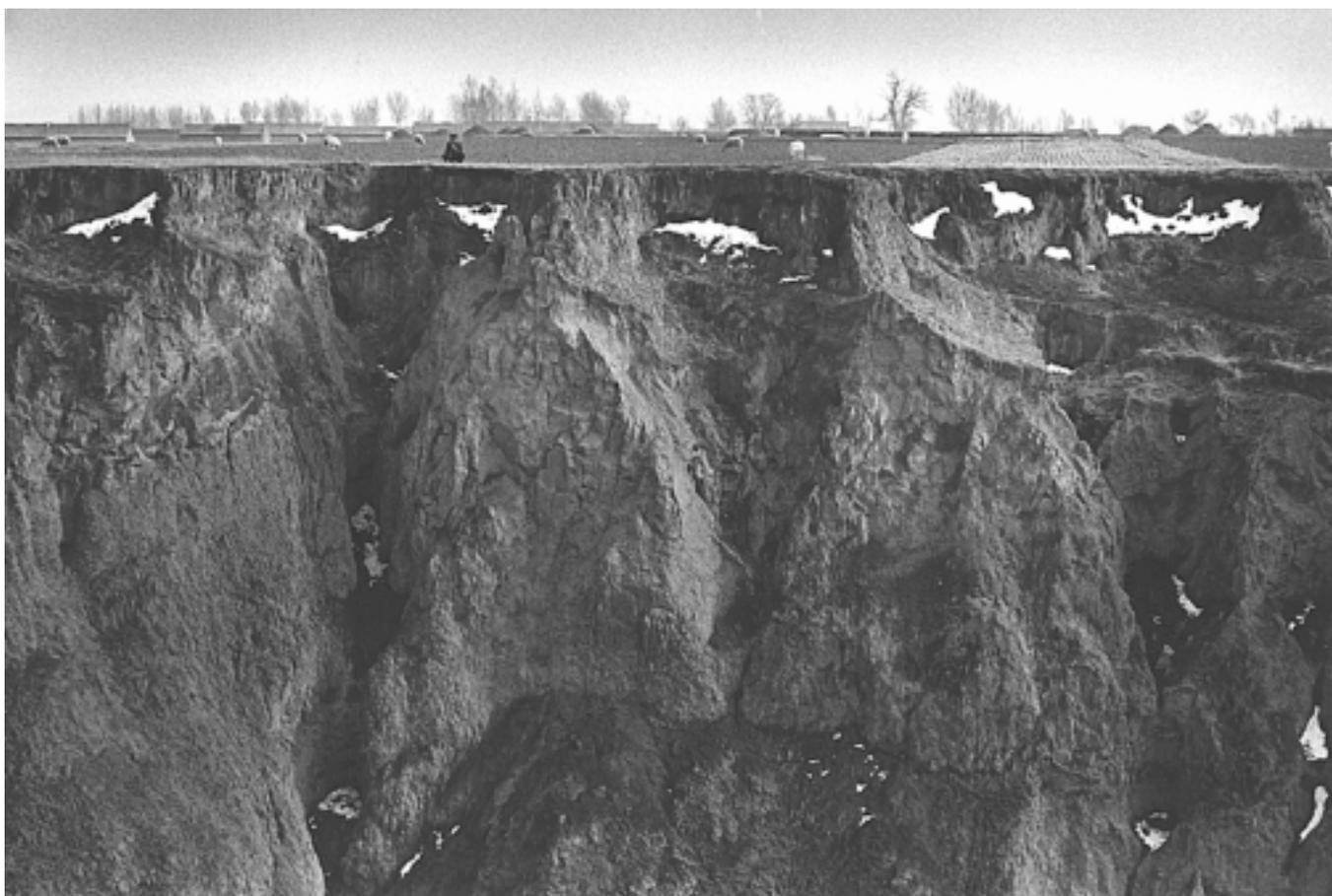


緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

地球は、いま.....	P 2
黄土高原の緑化協力	P 4
全国に広がるチコロナイの輪	P 6



切り立った浸食谷が水土流失の厳しさをものがたる (撮影: 橋本紘二)

GENに参加するには

- 会員・会報購読者になる
 - 自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
 - ワーキングツアーに参加する
 - ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
 - 使用済みテレカを集めて送る
- etc. あなたのご参加を待っています!

1996・6

47

(総集編)

地球は、いま.....

世界人口は58億人ともいわれます。個体の平均体重が50kgをこえる種が、これだけの数にまでふえたのは、46億年の地球の歴史上でも例をみないことだそうです。5月15日におこわれた榎田劭さんの講演会では、「繁栄は滅びのきざし」がキーワードのひとつでした（次号に記事を掲載します）。砂漠化、温暖化、食糧問題。警鐘はすでにいたるところで鳴らされています。いつまでも耳をふさいではられません。私たちに、いま、なにができるのでしょうか。

地球の砂漠化はすすむ

地球の砂漠化はどんどん進んでいる。部分的には自然現象もあるが、人間活動によるところが大きいという。私の見た場所でもっとも印象的だったのは、巨大な樹木が林立していた熱帯林の跡地である。伐採後20年もたっていない場所に赤い地肌が見え、草も満足に生えていなかった。熱帯多雨林ではこんなことは起こらないと思われるが、この場所は半年雨期、半年乾期の熱帯雨緑林であった。伐採 放牧 浸食 荒

地となった場所である。木を切っても最初は若干の有機物が残っているから雨期に草が生える。そこで家畜を放つ。草は種子が実らないうちに食べられて、翌年から草が減ってゆく。地肌に見える場所から、スコールで土壌浸食が始まる。乾期にヒビ割れが起こって、雨期に流され、砂漠化していくのである。熱帯ばかりではない、温帯にも砂漠化は起こる。そしてその原因の根源は人間の伐採によるが、砂漠化の進み方



恒山に登る立花吉茂代表（写真右）

は環境によって異なり、対策もまた多様である。上の例では、草の種子を蒔き、過放牧を避け、植樹をおこなえば緑化が成功する。しかし、いきなり植えた方が良い場合もある。われわれの協力している黄土高原は後者の例である。

二酸化炭素（CO₂）の増加と植林

産業革命からわずか200年の間に人類のエネルギー消費量は飛躍的に増加し、石炭や石油等の化石燃料を大量に使用することになった。その結果、大気中のCO₂濃度は、産業革命前より30%増加し、さらに増え続けている。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第1次報告（1990.8）では、このまま温室効果ガスの増加が続けば、その濃度はCO₂換算で2030年頃に2倍、2100年までに4倍に増加し、地球の平均気温は、10年間に約0.3℃、2025年までに約1℃、21世紀末までに3℃の上昇が考えられ、海面上昇は、地球平均で10年間に約6cm、2030年までに約20cm、21世紀末までに65cmになることが予想される、としている。また、温室効果ガスの大気中濃度を1990年レベルに

安定化させるには人為的な排出量の60%以上を即座に削減する必要があるとしている。これは世界の排出量についてのことであり、日本では1人当たり世界平均の約2.5倍のCO₂を排出しているから、「公平」に排出することを考えれば80%以上の削減が求められることになる。

1992年に批准された国連気候変動枠組条約では、これよりはるかに低い目標を定めた。温室効果ガスの排出量を2000年までに1990年の水準に戻すというのであるが、現実には排出量は毎年増加している。

IPCCの第2次報告（1995.12）では、大気中のCO₂濃度が550ppmになると、海面上昇や気候変動により生態系、食糧生産、水資源、健康などに深刻な影

響が生じると予測している。しかし、最近の現実的な議論は、CO₂濃度を750ppm程度で安定化させるためにCO₂排出量をどうやって削減しようかというところまで来ているというのだから、恐ろしい。

ところで、GENが1996年4月までに植林した面積は約1,300haである。この森林が順調に生育していれば、そのCO₂固定量は日本人1人当たりの年間平均CO₂排出量で1,000人分を超えていると推測される。もちろん、植林をすれば過剰消費が許されるということではないし、地球環境全体から見ればGENの植林活動など微々たるものであるが、CO₂に関する限り、GENは少なくともその会員分の2倍以上の環境保全を実現していると言えそうだ。これだけの自給できる植林地を確保しているので、1,000人までは会員を拡大しよう、という乱暴なこじつけを言ってみたくなる。

ホームページを開設しました

インターネットにGENのホームページを開設しました。アドレスは <http://hyperion.kueps.kyoto-u.ac.jp/tectonics/members/shimada/gen/gen.html> で、1997年3月まではこのアドレスでアクセスできます。一度のぞいてみてください。



広げよう緑の地球ネットワーク ～会員をふやそう！

緑の地球ネットワークが中国山西省の黄土高原で緑化協力をはじめて5年目になり、その間北海道二風谷でアイヌの人たちといっしょにナショナルトラスト『チコロナイ』も開始しました。地球環境の問題を、足元から、あるいは国境を越えて考え、行動する人たちのネットワークは確実に広がっています。今年から関東プランチも動きだし、講演会や学習会に参加していただくチャンスも倍増しています。

山西省大同市渾源県での2つのプロジェクト、260万円の苗木代の協力からはじまった黄土高原の緑化協力も、たくさんの助成やお力添えをいただ

て5年間に50か所以上を数えるまでになりました。『チコロナイ』も第1期をおわって3.4haの山林を買い取ることができました。こうして広がるGENの活動を根本からささえるのは、やはり会員・会報購読者のみなさんです。今後安定した活動を続けるためには、みなさんのご協力が不可欠です。緑化協力や森林保全は数十年にわたる時間のかかる仕事です。みなさんにも息のながい継続した協力をお願いいたします。

また、世論調査によると、地球環境の問題やボランティア活動に関心はあるけれどどうしたらいいのかわからない、という人たちがたくさんいるそう

です。そういう人が、あなたのまわりにもいるかもしれません。GENの活動は、ワーキングツアー、講演会、自然と親しむ会や、使用済みテレカの回収などごく気軽に参加していただけるメニューもあります。そんなところをきっかけに声をかけて、会員になってもらったり、会報を購読してもらったりして、“緑の地球ネットワーク”の輪を、大きく広げていきましょう。同封のリーフレットをご利用ください。

会員証をつくりました

緑の地球ネットワークの会員証をつくりました。現在会員のみなさんにはこの会報に同封しておとどけます。「あれっ、会員なのに入っていないよ」という方は、事務所の手違いか、会費の期限がきれているかもしれません。事務所までご連絡ください。

緑の中国 〈歴史篇〉 5

—中国の自然災害2つの法則—

上田 信（立教大学助教授）

中国の自然災害の歴史を研究しているアメリカの学者が、二つの法則を教えてくださいました。第一法則。文献に残された干害と水害の記録を分析すると、華北が日照りに苦しんでいる年には、華南では必ず洪水の被害を受けているというのです。この法則は、東アジアにおける大気の流れから考えると、容易に説明がつきます。

中国の大地は、夏になると南からインド洋をまわって湿った空気が吹き上げてきます。その空気はチベット高原の東端である秦嶺山脈あたりで、北から吹き降りてくる大陸性の乾燥した空気と衝突し、北上を止めます。しかし、夏に南の空気の力が強くなると、ときどき中国の北部に進入し、雨を降らせるのです。ところが年によっては、北の空気の勢力が強く、一步も譲らないということがあります。そうすると、華北には一滴の雨も降らず、華中では南から来た湿った空気が、冷たい北の空気の上に登って、延々と雨を降らすのです。こうして北の干害、南の水害

という状況が生まれるのです。

第二の法則。中国が内向きのときには、自然災害が緩和されるのですが、経済が外向きになると被害が拡大されるというのです。中国が閉鎖的な経済を運営しようとする、莫大な資金と労力を投入して、南から北へ向かう物流を支える大運河の整備をおこないません。その運河に水を常に流すためには、周囲の用水路の整備と維持をおこなう必要があります。こうして生まれた水路網を用いて、日照りの地域に水を引いたり、大水の時期には水を排出したりできるのです。しかし、外向きになると物資は海を通じて運ばれ、国内の水路は見捨てられて荒廃してしまいます。すると自然災害が起きても、対応できないというのです。

今世紀の80年代になると、中国は改革開放のスローガンのもとで、外向き経済に転換しました。この変化が自然災害を拡大しなければ、と気がかりで

秋の黄土高原 ワーキングツアーの お知らせ

なにも知らない素人がはじめた中国での緑化協力も、5年目ともなり専門家が加わると、いろいろわかってくるものです。たとえば、植樹は春と思いきんでいたのが、夏でもマツならようすを見ながらいける、とか、夏の雨のあとの秋に果樹を植えてもいい、とか。そこで今年、秋の黄土高原ワーキングツアーを実施することにしました。収穫をおえて、冬がはじまるまでのひとときを楽しむ村の人たちといっしょに、木を植えますか。

日時：10月3日（木）～10日（木）

費用：一般 185,000円

学生 175,000円

お問合せはGEN事務所まで。

日程・費用とも変更の可能性が
あります。くわしくは次号でご案内
いたします。



黄土高原の緑化協力

春先の黄砂は、黄
なぜ中国で？ 国人です。中国の問題
土高原から飛んできます。日本海側の
酸性雨は大陸の大気汚染が大きな原因
とも言われています。気流は、海流は
国境をこえてめぐり、さまざまなもの
を運びます。環境に国境はありません。
レスター・ブラウンの『誰が中国を
養うのか？』は世界中に大きな衝撃を
与えました。世界人口の5人に1人は中

黄土高原のキー
むずかしさ ところが、そんな厳しい
ワードは「水」です。雨は夏に集中し、
土を押し流します。ここを流れる桑干
河の水には1立方mあたり44kgの土が
含まれるといえはその深刻さをわかっ
てもらえるでしょう。

そして植物が動きはじめる春先、水
が決定的に不足します。
1995年の春の大干ばつ、夏の大雨、
秋の早霜は、大同市北部に大きな被害
をもたらしました。大同市全域で一時
は24万人が住居を失い、農作物の収穫
も平年の3~5割でした。

1992年に緑化協
広がる協力 プ環境財団などの
力をはじめて以来、たくさんの方々の
ご協力をいただいてきました。なかで
も、使用済みテレホンカードの回収は、
学校、職場などで、誰でもできる緑化
協力としてひろがっています。KDD
の協力ではじまった“グリーンアース
ダイヤル”も好評です。

また、96年5月で加入者が2,000万人
をこえた郵政省国際ボランティア貯金
や、環境事業団・地球環境基金、大阪
コミュニティ財団、国際開発救援財団、
国際緑化推進センター、イオングルー



緑の地球ネットワーク訪問団。六甲再度山で

は、いまや世界の問題なのです。
中国の農地の減少は、工業開発や農
民の農業離れなどが原因とされますが、
沙漠化による部分も無視できません。
沙漠化を防ぎ、農地を保全し、「環境
破壊と貧困」の悪循環に苦しむ農民の
生活を改善するためにも、植林は必要
なことといえるでしょう。

い状況でも、植林した木は思いのほか
根付いたのです。農民の苦しみに胸を
痛めながらも、「こんな年で活着した」
というのは、今後への光明でした。
あまりに粒子が細かいため根を窒息
させて枯死を引き起こす黄土、気温
(高度)と水分の蒸発量の関係で木が
育ちにくい丘陵地(1,200~1,500m)を
どうするか、新しい問題は次々と出て
きますが、あせらずに1歩ず
つ、協力をすすめていきたい
ものです。

さらに忘れてはならないの
が、95年10月25日から11月3日
まで、中国から“緑の地球ネット
ワーク訪問団”が訪れたとき、あ
たたくて迎えてくださった神戸、
大阪、奈良、川西、河内
長野のみなさんです。訪日団
のメンバーは、帰国後緑化協
力の中心となつてがんばって
います。

植えられた苗木	340.7万本
植林の面積	1,298ha
協力している苗圃	5カ所

●村の人と組んで ワーキング

作業すると、言葉がつうじなくてもい
ろいろ教えてくれるんです。気持ちは
つうじるんですね。でもやっぱり言葉
は知りたいけど…。(大林由美子・大
学生・95年春)
●ぼくは春も来たんですけど、春は一
面まっ茶色。生えてる木も枯れてるん
じゃないかと思うぐらい、一面まっ茶
色。夏には緑になると聞いて、それに
ひかれて来ました。本当にそのとおり
で、すごい感動しました。(中略)

このツアーは、想像してたのと全然
ちがいましたね。日本人がわっと来て、
日本人だけでやって、うまくいったと
かいかかったとか、そういうじゃ
ない。中国の人が植えるののバック
アップで、のっけてもらってるという感
じで、それがいいと思います。現地の

GEN緑化協力マップ

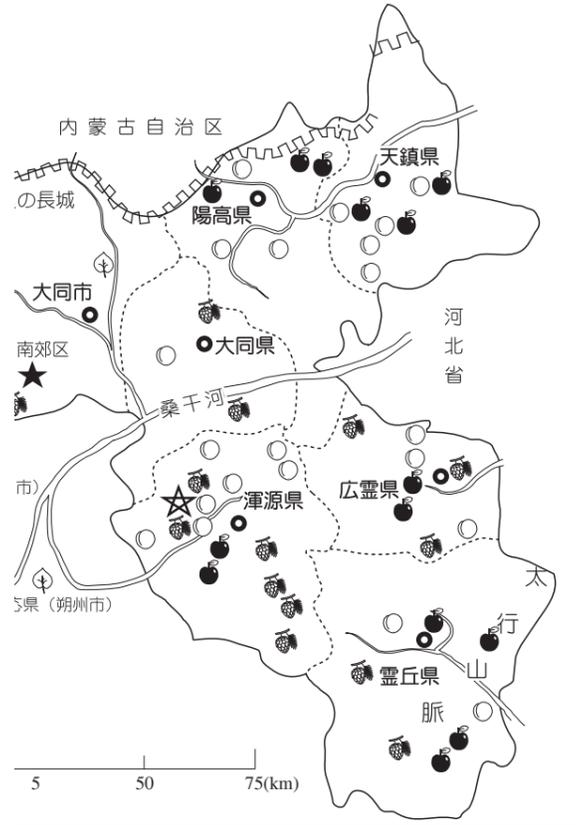
- マンシュウクロマツ、モンゴルマツなど(苗圃ふくむ)
- リンゴ(果樹園、小学校付属果樹園、苗圃)
- アンズその他(果樹園、小学校付属果樹園、苗圃)
- ⊕ ポプラ、ニセアカシア(苗圃ふくむ)
- ★ 地球環境林センター
- ☆ GEN宿泊所



ENの緑化協力	
小学校付属果樹園	23カ所
協力した資金	5,860万円 (96年4月まで)

●ツアー 人とどうしたら

いいか話をしながら緑化していくのが
いい。(藤井久生・大学生・95年夏)
●今回参加した目的のひとつは緑化協
力、もうひとつは戦後50年で、戦争の
ことを話したかった。おじいさんが2
人とも日本軍の兵士として中国に来て
た、その孫として。天鎮県であった大
学生が、「僕たちは決して忘れない。
数えきれない人が死んで、それを忘れ
るのは国に背くこと。君たちにも知っ
てほしいし、忘れないでほしい」と、
碑にも連れていってくれました。謝罪
だけでなくどういふ関係を築かが問
われてるけど、GENの活動は緑化の協
力だけでなく、信頼の構築でもあり、
いままでのマイナスの面を意識しなが
らプラスに転じていけると思います。
(稲井由美・団体職員・95年夏)



これから

広がる緑化協力を現地でささえるた
めに、1994年7月、緑の地球ネットワーク
山西合作弁事処(太原・張曉峰主任)と、
緑の地球ネットワーク大同事務所(大同・祁学
峰所長)ができました。さらに96年4
月、大同市南郊区の地球環境林センタ
ー(大同事務所直轄)にも4人の専門
家が赴任し、必要な機材をそろえなが
ら仕事をはじめています。
この地球環境林センターは次のよう
な設備と役目をもち、今後の緑化協力の
要となります。
①育苗施設…緑化協力地に供給するマ
ツや果樹の苗木を育てるとともに、
余剰の苗木を販売して資金にあてる。
②研究施設…乾燥地に適した植物を各

この一帯の農村 小学校付属果樹園

将来の収益で、村
の教育条件を改善し、どの子ども学校に
通える条件をつくることにしました。
このプロジェクトは地元の人々の熱烈
な歓迎を受けました。工事には、ヨチ
ヨチ歩きの幼児からお年寄りまで、村
中の人が参加しています。
それらの村では小学校に通えない子
がたくさんいます。5歳くらい
から弟妹の子守をしたり、ヤ
ギ、ヒツジの放牧、野良ご
となどにつきます。
村の予算がなくて、校舎が
老朽化し危険だったり、机や
椅子の不備な学校もあります。
小学校に果樹園をつくり、

地から集め、研究、栽培。
③研修施設…各県から青年たちを集め、
緑化の指導育成。
④緑化活動の中枢…各県、郷、村間の
横の連絡がないため、ここを中心に
技術・知識の交換・普及をはかる。
⑤宿泊施設…数人なら泊まれる設備を
備え、日本からの長期滞在も可能。
この地球環境林センターで、樹種の
多様化や条件に応じた緑化方法の研究
など、より現地に根ざした緑化が実現
されることでしょう。



●小学校付 現地の声

属果樹園の建設に関して
果樹園を建設することを聞
いたとき、私は将来の「小学
校果樹園」のようすを想像し
ました。私たちの果樹園はき
っとたいへんきれいなもの
になるでしょう。秋になれば、
たくさんの果実が、どの枝先
にもたわわに実るでしょう。
こんどやってくる日本の友
人は、緑の地球ネットワー
クのメンバーで、環境をよくし

て人類に幸福をも
たらし、そして地球環境を保護するた
めに、太行山脈の緑化、私たちの小学
校果樹園建設のために多額の資金を贈
ってくれるというのです。それをきい
て、私はとくべつにうれしくなり、人
を見ればそのことを話します。(孫笑
凡・靈丘県三山村小学校)
●労賃を使ってパイプとポンプを設置
し、給水を改善する村から
水を飲むための困難が解消されるの
はとてもいいことです。見返りをいっ
さい求めず無償で協力してくれるそう
ですが、もうしわけない気持ちです。
彼らを村のお客として、なんでもこ
の村に招きたいと思います。(李果・
天鎮県李二烟村農民)

大阪と二風谷を結び全国に広がる チコロナイの輪

チコロナイとは

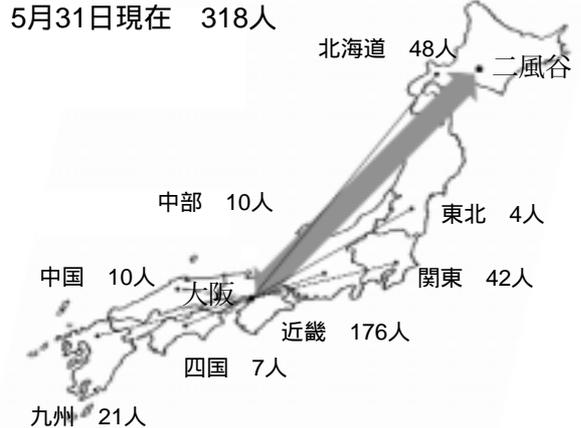
アイヌ語で「私たちの沢」という意味。アイヌ民族の人達が、昔、沢すじを中心に森の恵みをうけて生活していた地域を表しています。私たちは、ナショナル・トラスト運動によって私有地の山林を買い取り、豊かな、本来のアイヌモシリ（人間の静かな大地）としての森林を再生していきます。

また、この運動をとおして、かつてのアイヌ民族の自然と調和した「アイヌプリ」（生活のしかた）を謙虚に学び、過去500年以上にわたる侵略と人権抑圧の歴史をふまえて、アイヌ民族と、本来の意味での「シサム」（良き

隣人）とが友好を深め、共に歩んでいけるようにすることをめざします。

これは、アイヌ民族のアイヌプリの精神と生活、文化を回復し伝承していく活動の発展に寄与するとともに、シサムにとっても、“人間本来の真に豊かな生活”を考え直す契機となるでしょう。

96年1月20日、GENチコロナイ部会とORC200連絡協議会主催で萱野茂さんの講演会を開いた



今までの経過

【1992年1月】

緑の地球ネットワーク（GEN）準備会発足。

【1992年12月】

GEN討論会で石原忠一さんの『北海道の森林破壊に対してアイヌ民族の人達と協力した活動を始めてはどうか』という提案。

【1993年4月】

GEN正式発足。

【1993年9月】

ナショナル・トラストによる森林保護を軸にした、北海道での緑化協力活動の開始を会報で呼びかける。

【1994年12月】

第1期の募金活動開始。

【1995年12月】

『チコロナイ』第1期の募金活動終了。約3.4ヘクタールの山林買い取り。約20ヘクタール山林の保全契約締結。第2期の募金活動開始。

今までの主な活動

現地との交流

二風谷ワーキングツアー

第1回 1994年8月

第2回 1995年8月

秋の二風谷ツアー-1995年10月

大阪で

チコロナイ学習会 月1回

第9回は萱野茂氏の講演とアイヌ古式舞踊の披露で300人参加。次回（6月22日）で15回目。

チコロナイ・アイヌ語講座 月1回

次回（6月22日）で6回目。

チコロナイ学習会の ご案内

『食文化から学ぶアイヌ文化』第1回

内容：アイヌの人たちの伝統的な食べものとはどんなものなのでしょう？ 話し合ってみませんか。

日時：6月22日（土）16時～18時

場所：GEN事務所（JR環状線・地下

ナショナルトラスト 『チコロナイ』現地研修 第3回二風谷ワーキングツアー ご案内

日時：8月16日～21日（現地集合、解散）

場所：二風谷、富良野

定員：20人（ただし、全行程に参加できる人）

費用：集合から解散まで5万円（予定）

内容：東大演習林、チコロナイの林、博物館見学、山・畑仕事、木彫り・刺繍体験、チブサンケ参加、交流等。

問合せ・申込み：武田繁典まで（右ページ参照）



原生林で説明を聞くワーキングツアー参加者

鉄中央線「弁天町」駅徒歩3分、TEL.06-583-1719)

問合せ：円満堂（えんまんどう）修治（TEL/FAX.078-592-8466 21時～）アイヌの人たちの食べもの（食に関する道具、歴史、民話なども含む）に関する資料がありましたら、ぜひお持ちよりください。

第1期の概要

期間 1994.12.10～1995.12.9の1年間
 寄付 269人、総額 4,054,870円
 買い取り地 約3.4ヘクタール
 保全契約地 約21ヘクタール
 現地研修・交流 3回
 学習会（大阪） 8回
 通信 寄付者全員に『緑の地球』送付

第2期計画

期間 1995.12.10～1997.12.9の2年間
 ナショナルトラストによる買い取り
 第1期につづき、約6ヘクタールの山林買い取りが目標
 保全契約
 第1期につづき、順次増加させる（1ヘクタールを1年間5千円程度で契約）、
 募金活動 目標 700万円
 寄付金の使途に指定がない場合は、土地買い取り、保全契約に90%、土地の維持管理に5%、通信・事務費等に5%をあてる。

第2期計画 順調なすべりだし

1995年12月10日の開始から5月27日までで102件、1,146,500円の寄付が寄せられました。第1期からの繰越金764,979円、カンパなどと合わせて1,919,587円になります。第2期の募金目標は2年間で700万円ですから順調なすべりだしと言えるでしょう。

アイヌ新法や二風谷ダムのことが新聞やテレビで大きく報じられ、アイヌ民族をとりまく環境が大きく変化している今、私たちチコロナイの運動もますますその真価が問われています。

第2期の募金目標を達成するためにも、チコロナイの輪をますます広めていくためにも、おおくの方々の積極的な参加を呼びかけます。



第1期買い取り地で話す貝澤耕一さん

チコロナイ・アイヌ語講座 —いやでもわかるアイヌ語— 第3回

日時：6月22日（土）14時～16時
 場所：GEN事務所
 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
 資料代：1期（6回分）で2,000円
 途中から、または1回だけの参加でもOKです。お気軽にどうぞ。

北海道の自然と アイヌ文化にふれる チコロナイ子供キャンプ ご案内

夏の北海道の自然の中で、思いっきり遊び、現地の人びととの交流の中で、アイヌ文化の一端にふれてみませんか。現地では、4人のチコロナイのメンバーがお世話をいたします。

日時：8月8日～11日（現地集合、解散。大阪周辺の方は関西国際空港から帰阪まで引率します。航空料金など3万5千円は別料金）
 場所：北海道沙流郡平取町二風谷
 費用：3万円（集合から解散までの、保険料、およびGENジュニア会員年会費を含んだ全費用）
 募集：小学校5、6年生 10人
 締切り：7月8日
 問合せ：武田 繁典（左記）まで
 内容：1泊は民宿、2泊はキャンプ。山歩き、川遊び、農作業体験、自炊、キャンプファイアー、アイヌの木彫り、刺しゅう、民族舞踊体験、博物館見学など。

『全ての生物のために』

現地世話人 貝澤 耕一

大自然の北海道と言われていますが、本当に大自然なのでしょう。見返し、はてしなくつづく草原、それは北海道の自然ではありません。密林におおわれていたこの地、アイヌ民族の最後の天地を今日まで五百数十年にわたり、侵略、略奪、破壊してきた姿なのです。

その為に生態系がこわれ、きれいな小川に住むザリガニなどもさがしまわってもなかなか会うことが出来ないのです。又、鹿、熊の生活の場をうばい、しかたなく里にえさを求める彼ら、今に、私達人間の住む所を失う日も近い事でしょう。

そんな地球をみなさんは望んではいないでしょう。たしかに一人一人の力は小さい、でもその力を合わせると大きな力になるはず。その力でこれから生まれて来る子供達が、生きていける日本にする事が私達の責任のはずです。

もともとアイヌモシリは密林におおわれていて、山菜の多く取れる、小川を中心とした生活ではなかったかとお

もわれます。つまりどこでも森だったのです。

そんな、人間も含めた全ての生物が生きていける森を、ちっちゃな所からでも育ててはみませんか!!

二風谷ダムに反対して語る

「農業をやっていると、自然には絶対にさからえない。アイヌは自然から生活の糧を得ていたから、神として敬った。今の人間には自然に支えられているという意識がなさ過ぎると思う。山が守られれば、大水もそうは出ない。ダムが必要という根拠もなくなる」
 （4月2日 朝日新聞より）

連絡先

チコロナイ担当世話人 武田 繁典
 〒546 大阪市東住吉区今川6-2-6
 TEL/FAX. 06-704-7720
 現地世話人 貝澤 耕一
 〒055-01 北海道沙流郡平取町二風谷31-3 TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991

郵便振替 00900-2-52024
 チコロナイ



関東ランチ第2回交流会
地球を変えた緑と時間
 - 運命を握る一つの化学反応

地球環境問題を正確にとらえるために、化学の立場から環境問題を考察しておられる佐々木先生を講師におまねきしました。会員、非会員をとわず、多数のご参加をお待ちしています。

日時：6月29日（土）15時～17時30分

場所：立教大学池袋キャンパス5号館1階、第1会議室（「池袋」駅西口より徒歩7分、地下鉄有楽町線「要町」駅より徒歩6分）

講師：佐々木研一さん（立教大学教授）

問合せ：上田信（TEL/FAX. 03-3838-1695）

参加希望者は、前日までにご連絡ください。不在の場合は、FAX. または留守電にメッセージを。

日中交流セミナー
現代中国を考える

中国。改革開放に沸騰する沿海部と貧困から抜け出せない内陸部の格差は広がるばかりです。現代中国の政治的・経済的しくみのどこに地域格差をうむ要因があるのでしょうか。

日時：7月11日（木）18時30分～20時30分

場所：アピオ大阪（JR環状線・地下鉄中央線「森の宮」駅すぐ、TEL. 06-941-6332）

講師：石田浩さん（関西大学教授）

参加費：700円

主催：関西日中交流懇談会（TEL./FAX. 0797-88-2240）

やまももをどうぞ

おなじみ高知の田中さんから、そのまま食べてよし、果実酒にしてよしのやまもものご案内です。ポンカン果汁もどうぞ。

楊梅（やまもも）

1kg (250g×4パック) 2,500円

出荷 6月20日～7月5日

送料（クール便）別

関西920円、関東1,120円

ポンカン果汁

2倍希釈カン果汁（1,350cc）

3本詰箱入り 2,600円

送料別 関西620円、関東820円

ご注文は田中隆一さんまで

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲浦

TEL/FAX. 08872-9-2500

売り上げの一部をご協力いただいているので、ご注文の際には“GENの紹介”とひとことそえてください。



グリーンアースダイヤル
好評拡大中！

KDDの協力で実現した、グリーンアースダイヤル。「001」で国際電話をかけるだけで通話料に応じた金額をKDDがGENに協力、登録料や手数料等の負担はいっさいなしという手軽さで、たくさんのお申込みをいただいています。「国際電話なんかめったにかけないから」という方でも、たとえば1,000円の通話で50本のマツの苗木になりますのでぜひ登録を！ 申込み用紙はGEN事務所に用意しています。お電話・FAX. での申し込みも受け付けています。お名前・ご住所・登録する電話/FAX. 番号・加入者名を明記してGEN事務所までお申し込みください。

使用済みテレカ
回収にご協力を！

たくさんの方にご協力いただいている使用済みテレカの回収も、前回あたりは売り渡し値段が下がってがっかりしていました。けれど今回、NTTが回

収に乗りだして、また価格が上がっています。みなさんからよせられた緑化への気持ちを、すこしでも多くの苗木に変えようとがんばっていますので、今後ともよろしく願います。

牛乳パックに貼ってご利用いただくテレカ回収用のステッカーを事務所に用意しています。ご希望の方はご連絡ください。

ビデオ

『黄土高原に緑を！』

どこまでも広がる黄土色の大地、見渡すかぎり木のない山々、耕して天に至る段々畑。厳しい自然条件のなか、そこで暮らす純朴な人びと。GENの緑化協力のようす。28分のビデオにまとめてあります。ご家族、お友達といっしょにごらんください。

『黄土高原に緑を！』

ビデオ作品・カラー・28分

一般価格 5,000円

GEN会員価格 3,500円

郵送料390円別途

制作協力 環境庁・環境事業団 地

球環境基金

文部省選定 / 中華人民共和国駐日本国大使館推薦...など

申込み GEN事務所まで

空き缶募金

継続中

毎日でてくる小銭を苗木代にしよう！ とはじめた空き缶募金。1円がマツの苗木1本になると思えば、貯めがいもありますよね。空き缶に貼るステッカーを用意しています。事務所までご連絡ください。

写真パネル・スライドの
ご利用を

学園祭・文化祭や各種イベントなどでご利用いただき、好評の黄土高原の写真パネル。スペースにあわせて、ご希望の枚数をお貸しします。また、スライドもありますので、ご希望の方はGEN事務所までご連絡ください（大阪市港区市岡元町3-9-16 西建ビル TEL. 06-583-1719 FAX. 06-583-1739）